

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもコミュニティルーム たいよう			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		～	2025年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日		～	2025年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 1月 20日		～	2025年 2月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日			
○分析結果				

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・関係機関や保護者との連携において、日頃からこどもの状況を保護者に伝え、こどもの発達の状況や課題について共通理解を行っている点。	・普段のミーティングにおいて、こどもが抱える課題について話し合いを重ね、共通理解の上、サポートにあたっている。	・成長に伴う変化について、サポート内容を検証し直しながらサポートを進めていく。
2	・こどもが抱える課題について、ミーティング内で話し合いを行い、訪問支援を実施している。訪問支援後もミーティングを実施し、情報共有を図っている点。	・訪問支援によって得た情報は必ず共有を図り、普段のサポートに繋げている。	・現状の形で情報共有が図れているので、今後も同様の形で進めていく。
3	・相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している点。	・相談や申入れに対して、管理者・児童発達支援管理責任者を中心に迅速な対応に努めている。	・普段サポートにあたっているスタッフ間での情報共有が図れているので、管理者・児童発達支援管理責任者以外のスタッフの対応も講じていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図る点。	・訪問支援件数が少なく、予定調整が上手くできなかったことが要因と考える。	・訪問支援件数を増やしていくことに加え、普段からの連携を深め、必要なタイミングでの訪問支援を進めていく。
2	・家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等ができていない点。	・家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)についての知識不足が要因と考える。	・まずは家族支援プログラムについて社内研修を実施し、どのような内容で研修を開催するのか。また情報共有の機会をどのように進めていくのかを検討していく。
3	・安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われていない点。	・日々、危険箇所点検を行い、安全管理は実施しているが、安全計画の作成や研修が十分な内容となっていないことが要因と考える。	・安全計画作成、研修を充実させ、安全管理に対する意識を高め、普段のサポートに繋げていく。